



ヒバクシャ地球一周 証言の航海
Global Voyage for a Nuclear-Free World
Peace Boat Hibakusha Project

**PEACE
BOAT**
〒169-0075
東京都新宿区高田馬場
3-13-1-B1
TEL: 03-3363-7561
FAX: 03-3363-7562
<http://www.peaceboat.org>

2016年8月1日

第9回「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」
参加者 略歴

■被爆者



深堀 讓治（フカホリ・ジョウジ）

長崎被爆 1931年1月3日生まれ 被爆当時14歳

長崎県長崎市在住

爆心地より3.3km地点の兵器工場内で被爆。自身に怪我はなかったものの、爆心地より600mの自宅にいた母親、2人の弟、1人の妹を亡くす。2006年より長崎平和推進協会の平和案内人として、原爆資料館内・被爆遺跡の案内に従事。長い間被爆体験は語ってこなかったが、被爆の実態を伝えていく必要性を感じ2009年より証言活動を始めた。国内のみならずロシアなど海外でも被爆体験を語っている。



深堀 俊子（フカホリ・トシコ）

長崎被爆 1934年9月28日生まれ 被爆当時10歳

長崎県長崎市在住

爆心地より2.7km地点にある自宅で被爆。直接的な被害としては傷を少し負っただけだった。2010年、自身の同窓会をきっかけに証言活動を開始。また被爆者歌う会「ひまわり」に所属し、長崎市内の学校にて歌を用いた平和活動を行なっているほか、2015年にはドイツ公演にも参加。夫である深堀讓治さんとともに、国内外で証言活動をしている。



森川 高明（モリカワ・タカアキ）

広島被爆 1939年5月4日生まれ 被爆当時6歳

広島県広島市西区在住

黒い雨による被曝（爆）とその後の放射能汚染された飲食による被曝。当時、爆心地から300mの天神町北組（所）に住んでいたが、原爆投下の5カ月前に佐伯郡八幡村に疎開。肺炎を患い、爆心地から10kmの病院に入院していたため直接被爆を免れた。被爆体験証言活動は日本国内にとどまらず、アメリカを中心にイギリスやニュージーランド、オーストラリアでも証言し、核のない世界のために活動をしている。



田河 豊子（タガワ・トヨコ）

長崎被爆 1939年5月8日生まれ 被爆当時6歳

大分県大分市在住

爆心地より9.2km地点の疎開先で被爆。水を飲むために防空壕から外に出た直後であった。爆心地から500mの長崎医科大学にて授業中に被爆した兄は、高熱と痛みにもがき苦しみ、家族に見守られながら10日後に息を引き取った。自身に外傷はなかったが、学生時代は貧血に苦しんだ。その後、肺の切除や子宮摘出等の多くの手術を経験。これまで、新聞への投稿やテレビにて被爆体験を語ってきた。



坂下 紀子（サカシタ・ノリコ）

広島被爆 1943年6月22日生まれ 被爆当時2歳

埼玉県所沢市在住

爆心地から1.4km地点の自宅にて被爆。強烈な爆風で数m飛ばされ、落ちてきた柱の釘で額を切る等の被害を受けた。その後、町の中を避難して黒い雨を浴びる。2014年の第7回「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」参加後、国内のみならずNPT再検討会議・日本被団協代表団として、ニューヨークなどで証言活動の幅を広げている。自身の体験に加え、母親など親族の被爆体験も彼らの記憶を通じて話している。

■被爆二世



東野 真里子（ヒガシノ・マリコ）

広島被爆二世 1952年9月10日生まれ

広島県広島市安佐南区在住

母（当時17歳）が爆心地から3km地点の自宅、祖母（当時42歳）が1.8kmの船入病院にて被爆。広島市の被爆体験伝承者養成事業に参加し、2015年「被爆体験伝承者」に認定された。被爆者が高齢化していくなか、二度とあやまちを繰り返さないという想いを継ぎ、2世の言葉として世界へ発信したい。

■継承者



橘 光生（タチバナ・ミツオ）

継承者 1941年1月23日生まれ

広島県広島市南区在住

「平和のために微力であっても何か自分にできることはないか」という思いから、2005年より広島平和記念資料館のピースボランティアとなった。資料館や平和記念公園の解説やガイドを行なっている。6カ月の研修を経て現在に至るまで、国内外を問わず原爆の悲惨さを伝える活動に尽力。広島市の被爆体験伝承者養成事業に参加し、2016年「被爆体験伝承者」に認定された。

■ユース



山崎 御園（ヤマザキ・ミソノ）

東京都出身、東京都立川市在住、現在21歳

幼少時に子供劇団でミュージカル舞台に立ち、戦争を題材にした作品にも取り組む。小学6年生の時に広島の実験ドームを訪れ、初めて戦争を身近に触れ衝撃を受ける。高校卒業後、再び演劇の道を目指し、演劇集団「円」の研究所で2年間演劇を実践的に学ぶ。現在、被爆の実相を継承していくことを主題に、表現者として過去を問い直しながら、未来へ問いかける役者を目指している。



寒川 友貴（サムカワ・トモキ）

兵庫県出身、東京都中野区在住 現在19歳

10代が政治に興味を持つきっかけをつくるため、高校時代から学生団体の代表として、ワークショップや模擬選挙、出前授業などを開催。「国を作るのは市民である」という考えから、政治啓発活動を行い、未来の有権者の政治意識の向上に尽力。若者と被爆者が協力することで、被爆体験の継承をすすめていきたい。また、核問題に関心がない層に対しては、イベントの敷居の高さを取り除き、参加しやすい企画を提案していく。

※出航時（2016年8月18日）の年齢を記載しています。